

感染症を引き起こすのは「ウイルス」、人ではありません ～新型コロナウイルスによる差別をなくそう～

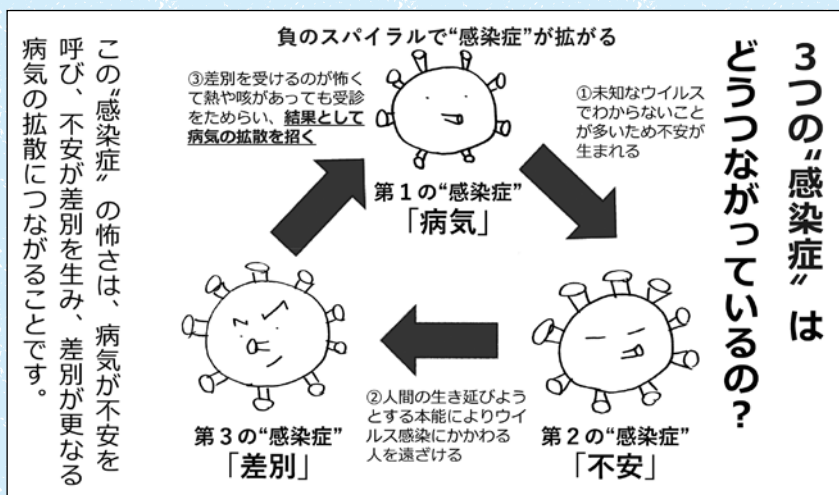
今年のはじめから、世界中で新型コロナウイルス感染症が大流行しています。日本でも生活や仕事、子どもの教育にも大きな影響を与えながら、今も依然として収まる気配はありません。外出や人と会うことが制限され、イベントが中止になり、これまでの日常が一変しました。

そのような中、感染した人やその家族だけでなく、医療に従事する人々やゴミ収集の方、長距離ドライバーの方等、社会生活を支える人たちに対して心ない言葉が向けられたり、排除されたりする差別が起こっています。

見えないウイルスへの恐怖と差別

こうした差別の発生について、今年の3月に日本赤十字社から「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう～負のスパイラルを断ち切るために～」というガイドが発表されました。

このガイドを見てもわかるように、新型コロナウイルスは私たちの目に見えず、有効な治療薬やワクチンもまだありません。このようにわからないことが多いと、私たちは不安になり、恐怖を覚え、冷静な気持ちを失ってしまいます。その不安や恐怖を遠ざけるため、感染した人やその家族だ



日本赤十字社 「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう～負のスパイラルを断ち切るために～」

けでなくさまざまな人に心ない差別の言葉を浴びせ、遠ざけることで安心しようとしてしまいます。しかし、このような差別をすることが、受診することをためらわせ、結果的に病気の拡散を招くことにもなるのです。

私たちが新型コロナウイルス感染症を乗り越えていくため、そして差別のない社会を実現していくためにも、こうした負の悪循環は、断ち切らなければなりません。

感染症を引き起こすのはウイルスです

「ウイルス」に対して気をつけることは、国・県・市や医療機関から発信されています。「人」を差別することで遠ざけ安心することは間違ったことです。このような差別は、絶対に止めなければなりません。

ウイルス発生から1年近くが経過し、国が提唱する「新しい生活様式」も広まってきた現在、感染した人や家族、医療従事者を励まし支え、共に乗り越えていこうとする動きも各地で起きています。差別することで人とのつながりをなくすような生き方をするのか、励ますことで人とつながる生き方をするのか、コロナウイルスが私たちに問いかけているのではないのでしょうか。